マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第3部 組み立てる

U08　字数に合わせる（補う・削る・分けて書く・長い解答の手順）

ベーシック

対象：小学5年・偏差値55〜60

1. 要点（ルール）
2. 例題　物語文「坂の上のバス」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　字数に合わせるルール

R08-1　まず骨を作る

聞かれたことに一言で答える「骨」（いちばん短い答え）を先に決め、文の最後に置く。骨が無い答えは、ほかをいくら書いても点にならない。

R08-2　足すのは前に・順番は 理由→対比→説明

字数があまったら、骨の前に足す。足す順番は多くの場合 ①理由 ②対比（～だけでなく・～ではなく）③説明（くわしくする言葉）。これは傾向で、問題によっては対比が先のこともある。本文に根拠のないことは足さない（字数をうめるための言葉は減点のもと）。

R08-3　読んでいない人のために補う

だれが・何を・どんな場面で、を補う。「一人で乗れるようになった」だけでは、だれが何に乗れたのか、本文を読んでいない人にはわからない。

R08-4　あふれたら削る（名詞化・抽象化）

名詞化＝長い言い方を名詞にまとめる（下から上に向かう空気の流れ→上向きの気流）。抽象化＝短い言葉にまとめる（父と母→両親）。削る順番は 説明→対比→理由。骨は削らない。削ったら本文にもどって、意味が変わっていないかを確かめる。

R08-5　長くなったら分けて書く

「～が、～が」「～て、～て」と続いたら、しかし・そして・だから などで文を分ける。五十字くらいまでは一文でよい。分けると字数が少しふえるので、数え直す。

R08-6　字数の数え方

句読点・かぎかっこも1字。指定字数の8割以上を目安に書き、上限を1字でもこえない。書き終わったら必ず数える。

ルールの番号（R08-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　物語文「坂の上のバス」

① 町の坂の上にある団地と駅のあいだを、一日に十二回、小さなバスが行き来している。運転手のヤマダさんは、このバスを十年以上運転してきた。

② 朝七時十分のバスには、毎日、同じ顔ぶれが乗ってくる。ヤマダさんは、「おはよう、ユイちゃん。今日は遠足だったね。」「タナカさん、ひざの具合はどうですか。」と、一人ひとりの名前を呼んで声をかける。

③ ある雨の朝、発車の時刻になっても、いつも乗ってくるおばあさんが、まだ来なかった。ヤマダさんは時計を見て、少しだけ待った。坂の下から、かさをさしたおばあさんが、急いで歩いてくるのが見えたからだ。「ゆっくりでいいですよ。足もとに気をつけて。」

④ もちろん、バスは時刻どおりに走らせなければならない。ヤマダさんは、待ったぶんの一分を、信号の少ない道で、安全な速さのまま、静かに取りもどした。

⑤ バスをおりるとき、乗っていた人たちは、口ぐちに「ありがとう」と言う。中学生のケンは、友だちにこう話したことがある。

⑥ 「ヤマダさんのバスに乗ると、一日が少しやさしくなるんだ。」

問　――線部「ヤマダさんのバスに乗ると、一日が少しやさしくなる」とありますが、町の人にとって、ヤマダさんはどのような運転手ですか。六十字以内で説明しなさい。

解き方

1. **手順1　骨を作る**
   「どのような運転手か」に一言で答える。――線部の「一日がやさしくなる」はたとえなので言いかえて、「乗る人を気づかい、気持ちをあたたかくしてくれる運転手。」これが骨。文の最後に置く（R08-1）。
2. **手順2　字数を見る**
   六十字なので、骨の前に足せる。足す順番は 理由→対比→説明（R08-2）。
3. **手順3　理由を足す**
   なぜそう言えるのか＝②③段落：一人ひとりの名前やようすを覚えて声をかける。おばあさんを少し待って「足もとに気をつけて」と言う。例をならべず「名前や体の具合まで覚えて声をかける」とまとめる。
4. **手順4　対比を足す**
   ④段落：バスは時刻どおりに走らせなければならない。「時刻どおりに走らせるだけでなく」と前に置くと、ふつうの運転手とのちがいがはっきりする。
5. **手順5　数える**
   説明（十年以上・一日十二回）は字数が足りないので入れない。「町で人気がある」は本文に書いていないので足さない。最後に字数を数える（R08-6）。

組み立て表(骨と、足す部品・削る部品)

部品	中身	根拠	どうする？
骨	乗る人を気づかい、気持ちをあたたかくしてくれる運転手	⑥	◎ 最後に置く
理由	一人ひとりの名前や体の具合まで覚えて声をかける	②③	◎ 前に足す
対比	時刻どおりに走らせるだけでなく	④	○ 前に足す
説明	十年以上・一日に十二回運転している	①	△ 字数があまれば
根拠なし	町でいちばん人気がある	なし	× 足さない

模範解答

模範解答(六十字以内) 60字／60字以内

時刻どおりに走らせるだけでなく、乗る人の名前や体の具合を覚えて声をかけ、一人ひとりの気持ちをあたたかくしてくれる運転手。

参考:三十字以内なら 27字／30字以内

乗る人を気づかい、気持ちをあたたかくしてくれる運転手。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
骨:乗る人を気づかい、気持ちをあたたかくしてくれる(一日がやさしくなる、を言いかえている)	5点
理由:一人ひとりの名前やようすを覚えて声をかける	3点
対比:時刻どおりに走らせるだけではない	1点
文末が「～運転手。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「十年以上、一日に十二回、坂の上のバスを運転している運転手。」	説明だけで骨が無い。どのような運転手かに答えていないので0点。
「雨の朝に、おばあさんを一分待ってあげた運転手。」	一つの例だけ。骨が無く、理由も3点中1点。
「…気持ちをあたたかくしてくれる運転手で、町でいちばん人気がある。」	根拠のないことを足した。字数をうめても点にならず、文末もずれる。
六十一字以上	字数オーバー。採点されないことが多い(0点)。

練習1　説明文「わたり鳥のV字」

① 秋の空を、ガンのむれが、V字の形にならんで飛んでいくことがある。どうして、横一列やばらばらではなく、あの形なのだろうか。

② 鳥がつばさを上下に動かすと、つばさの先のほうでは、空気がうずをまくように回りはじめる。このとき、つばさの先の少し外がわのうしろには、下から上に向かう空気の流れが生まれる。

③ うしろを飛ぶ鳥は、前の鳥のつばさの先の、ななめうしろに入る。そうすると、この上に向かう空気の流れに体をおし上げてもらえるので、自分でつばさを動かす力を、少なくすることができる。ガンのように、何千キロメートルもの長い道のりをわたる鳥にとって、これは大きな助けになる。

④ では、先頭の鳥はどうしているのだろう。先頭には前の鳥がいないので、上に向かう空気の流れを使うことができない。いちばんつかれる場所である。そこでガンのむれは、ときどき先頭を交代しながら飛んでいく。

⑤ V字の形は、だれか一羽ががんばりつづけるのではなく、むれのみんなで少しずつ力を出しあって、長い旅をやりとげるためのならび方なのである。

問　――線部「V字の形にならんで飛んでいく」とありますが、ガンのむれがV字の形にならんで飛ぶのはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

① 組み立て表を書こう

部品（骨・理由・対比・説明）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40

40字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　物語文「手をはなす日」

① 弟のタクは、春から、補助輪のない自転車の練習をしている。姉のミサキは、毎日、学校から帰ると、公園でタクの自転車のうしろの荷台をささえて、いっしょに走った。

② タクは、何度も転んだ。ひざには、ばんそうこうが三まいはってある。ハンドルをにぎる手には、まめもできた。「もうやめる。」と泣いた日もあった。それでも次の日になると、タクは自分から自転車を引っぱり出してきた。

③ 二週間がたったある日、ミサキは、走りながら、そっと荷台から手をはなしてみた。タクは気づかずに、ペダルをこぎつづけている。自転車は、ふらつきながらも、公園の池のまわりを半周した。

④ 止まってふり返ったタクは、ミサキがずっとうしろに立っているのを見て、目をまるくした。

⑤ 「えっ、ぼく、ずっと一人で走ってたの？」

⑥ ミサキは、大きくうなずいた。「うん。もう、だいじょうぶ。」

⑦ その夜、タクは、ばんそうこうだらけのひざを母に見せながら、公園の池を半周した話を、三回もくり返した。

問　――線部「もう、だいじょうぶ」とありますが、どういうことですか。五十字以内で説明しなさい。

① 組み立て表を書こう

部品（骨・理由・対比・説明）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										

50字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　説明文「わたり鳥のV字」

解き方

1. **手順1　骨**
   ⑤段落：むれのみんなで力を出しあって、長い旅をやりとげるため。骨＝「むれのみんなが少ない力で長い旅を続けられるから。」
2. **手順2　理由(しくみ)を足すと、あふれる**
   ③段落をそのまま足すと「前の鳥のつばさの先のななめうしろに入ると、下から上に向かう空気の流れに体をおし上げてもらえるので、自分でつばさを動かす力を少なくすることができ…」で八十字をこえる。
3. **手順3　名詞化・抽象化で削る**
   「下から上に向かう空気の流れ」→「上向きの気流」(名詞化)。「自分でつばさを動かす力を少なくする」→「少ない力で」。「何千キロメートルもの長い道のり」→「長旅」(R08-4)。
4. **手順4　意味が変わっていないか確かめる**
   ③段落にもどって読み、「前の鳥が生む」「少ない力で」が本文と同じことを言っているかを確かめる。最後に字数を数える。

組み立て表

部品	中身	根拠	どうする？
骨	むれのみんなが少ない力で長い旅を続けられる	③⑤	◎ 最後に置く
理由(しくみ)	前の鳥のつばさが生む上向きの空気の流れに乗れる	②③	◎ 名詞化して足す
説明	先頭はときどき交代する	④	△ 四十字では入らない
わな	先頭の鳥がいちばんつかれる	④	× 理由ではない

模範解答

模範解答　40字／40字以内

前の鳥が生む上向きの気流に乗れば、むれのみんなが少ない力で長旅を続けられるから。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
骨:むれのみんなが少ない力で(つかれずに)長い旅を続けられる	5点
理由:前の鳥(のつばさ)が生む上向きの空気の流れに乗れる	3点
名詞化・抽象化して、骨と理由の両方を四十字に収めている	1点
文末が「～から。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
③段落をそのまま写した八十字の答え	字数オーバー。中身が合っていても採点されないことが多い(0点)。
「前の鳥のつばさの先のななめうしろで、上に向かう空気の流れにおし上げてもらえるから。」	理由だけで骨が無い。何がよいのか(少ない力で長い旅ができる)が入らず、5点が入らない。
「先頭の鳥がいちばんつかれるから。」	理由ではない(V字にする理由と反対の向き)。0点。

練習2　物語文「手をはなす日」

解き方

1. **手順1　骨**
   「一人で乗れるようになったということ。」――でも、これだけでは、だれが・何に乗れたのかがわからない。
2. **手順2　補う(R08-3)**
   だれが＝タク。何に＝補助輪のない自転車。どんな場面で＝姉がささえなくても(③段落で手をはなした)。
3. **手順3　理由を足す**
   ②段落:何度も転びながら練習してきた。字数があまるので前に足す。
4. **手順4　分けない・数える**
   五十字以内なので一文でよい。「転んで、泣いて、それでも練習して」と「て」を続けない(R08-5)。最後に数える。

組み立て表

部品	中身	根拠	どうする？
骨	一人で乗れるようになった	③⑤	◎ 最後に置く
補う	タクが／補助輪のない自転車に／姉がささえなくても	①③	◎ 補う
理由	何度も転びながら練習してきた	②	○ 前に足す
わな	ひざのけががなおった	⑦	× 本文と合わない

模範解答

模範解答　50字／50字以内

何度も転びながら練習してきたタクが、姉がささえなくても、補助輪のない自転車に一人で乗れるということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
骨:一人で(ささえなしで)乗れるようになった	5点
補う:タクが・補助輪のない自転車に・姉がささえなくても	3点
理由:何度も転びながら練習してきた	1点
文末が「～こと。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「一人で乗れるようになったということ。」	だれが・何に、が無い。本文を読んでいない人に伝わらず、補う3点が入らない(10点中6点)。
「ひざのけががなおったということ。」	本文と合わない。0点。
「タクは、何度も転んで、泣いて、それでも練習して、姉が手をはなして、…」	「て」が続いて読みにくく、字数もあふれる。分けるか、短くまとめる。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U08 字数に合わせる（ベーシック）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます